

シアトルだより- March 2017 Vol.12



いよいよ3月となりました。日米親善の象徴、シアトルにあるワシントン大学の桜。例年この時期は満開だそうですが、今年は少し遅いようです。



日本語3の授業では、日系人の歴史についてグループで調べました。戦



前、アメリカ西海岸にはたくさん日本人移民が住んでいました。子は日系二世といい、日本人の顔ですが米国に生まれ育ち米国籍を持つ人々です。現在観光名所のパイクプレイスマーケットという市場を築き、日本町もできました。しかし第2次世界大戦開戦後、日系人強制収容の大統領令が出

されました。米国民であるのに突然家も土地も追われ、砂漠の収容所で終戦後まで数年を過ごしました。葛藤の末、米軍として戦った人も多く、今はその孫が生徒世代です。今年はそれから60年後。安倍首相がオバマ大統領と開戦の象徴であるパールハーバーを訪問し、話題になりました。



「日本語キャンプ」という催しが中学校と高校の2日に分けてありました。

日本語教師会の主催で、各校から生徒たちがやってきて、日本文化を学んで一日を過ごすイベントです。琴や生け花、和太鼓体験をしたり、クイズや運動会をしたりして楽しく過ごします。チャンバラ遊びを取り

入れたところ、大喜びでした。みんな日本のことが大好きです。結局、文化を好きになることが、外国語を話す一番の近道なのかもしれません。



大阪から交流校の高校生が来て数日過ごしました。アメリカではなぜ授業中に寝ている生徒がいないのかという質問に、こちらの生徒は、ついていけなくなると困



るし自己責任だからと言っていました。日本より規則の面ではかなり自由ですが、やるべきことは案外きちりやっています。いろんな授業を見に行きましたが、基本的に静かに座っていればよいというわけではなく、積極性が求められるので、確かに寝ている暇はありません。こちらの授業は

ノートに写すだけでなく、何か自分で実際に創造的な活動をやる場面がいつもあります。そういう授業を自分も目指したいということが、この一年で一番自分が学んだことです。

さて、一年間の任期も今月で終わりです。マカティオ市の暮らしやカミアック高校について書いたコラムを地元の「マカティオビーコン」という新聞に載せてもらい、知り合いや高校の同僚からたくさん声をかけられました。一年を振り返り、形にも残ったのでよかったです。こちらは4月といっても特に学期の切れ目でも何でもなく、なぜ今帰ってしまうのかと何度も言われました。



勤務最終日の数日前にスタッフミーティングで最後のあいさつをしました。すっかりなじんだたくさんのスタッフや生徒に Sayonara を言って、この思い出多きカミアック高校を後にします。それまでの価値観が大きく揺さぶられる一年でした。お世話になったすべての方に感謝でいっぱいです。

シアトルだよりも今月で終わりとなります。一年間ありがとうございました。